

B 26

3043



荊谷保敏編輯

五級課書

小學讀本入門

京都

福井正寶堂版

教授方法及順序法

一 別体假名ヲ授ルニハ懸圖ニ就テ其讀方ヲ教フベシ而シテ其字体ハ平假名ヨリ曲折等多クレバ書取ノ際尤モ運筆ノ順序ニ注意スベシ

一 單語ヲ教フルニハ先ツ懸圖ニ就テ讀方ヲ授ケ而シテ其文字ノ形ヲ記憶セシムベシ殊ニ讀方ヲ授ルニハ音ノ清濁ニ注意シテ呼方正シク朗カナラシメ摘書ノ際文字字畫ノ誤謬ニ注意セシムベシ又日用諸物ハ實物或ハ圖ニ就テ其名稱部分常習効用等ヲ知ラシムベシ一單句篇ハ簡短ナル一文章ヲ成シタルモノナレバ教授ノ際其起承結法等ニ注意シ作文思想力ヲ養生スベシ

別體假名の圖

以	不	如
後	月	法
て	魚	成
ハ	坐	王
ハ	去	可
ふ	里	与
ふ		

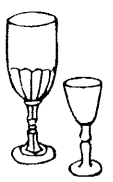
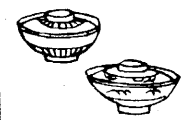
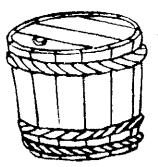
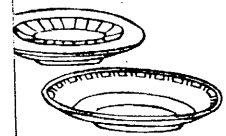
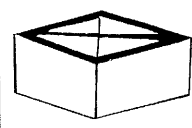
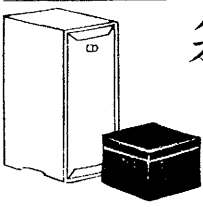
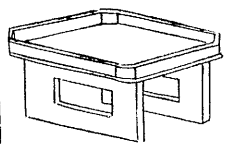
多	法	字	皇
と	祢	井	屋
走	那	比	満
そ	亦	乃	中
找	羅	あ	亦
找	毘	久	今
律			

以	志	以	如
	直	死	未
	乞	或	元
	无	也	之
	勢	免	阿
	屯	之	去

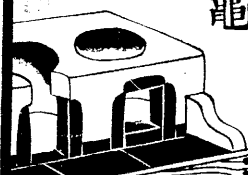
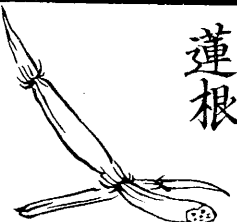
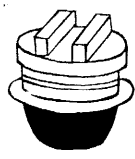
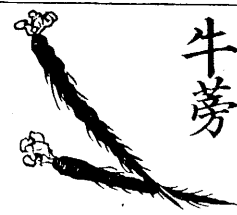
荊谷保敏書

第三圖

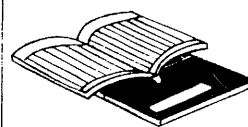
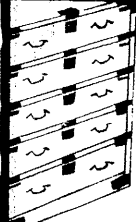
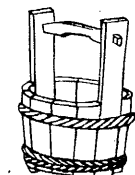
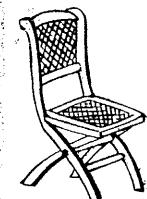
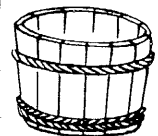
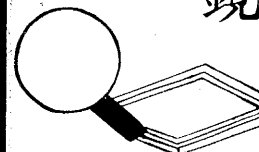
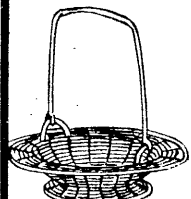
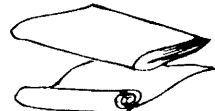
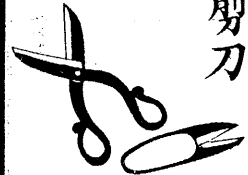
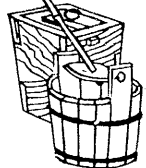
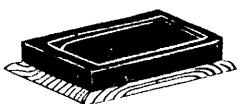
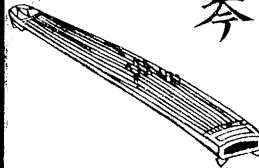


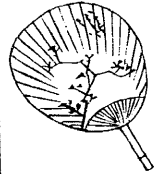
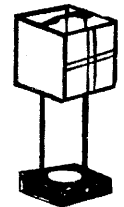
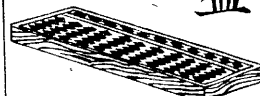
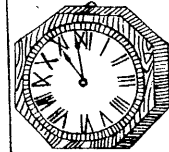
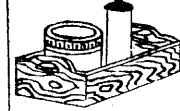
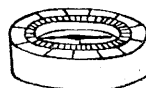
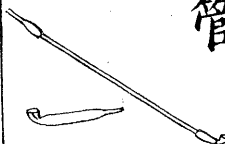
	鍾		碗		鍋
	杯		茶碗		樽
	壺		皿		升
	庖刀		鉢		火鉢
	箱		德利		膳

圖四第

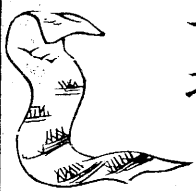
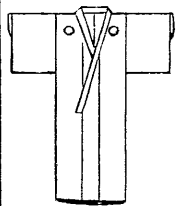
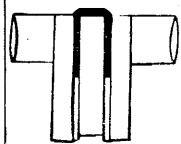
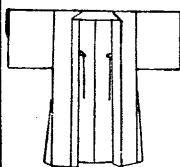
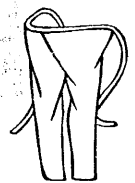
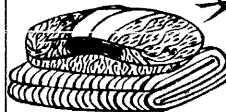
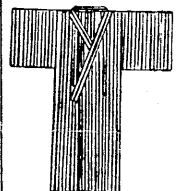
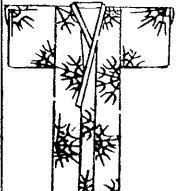
	竈		蓮根		筍
	釜		薑		蕈
	茶釜		芋		蘿蔔
	鐵瓶		牛蒡		胡蘿蔔
	土瓶		葱		蕪

第五圖

 柄杓	 本	 簞笥
 手桶	 筆	 椅子
 桶	 墨	 鏡
 籃	 紙	 剪刀
 釣瓶	 硯	 琴

 太鼓	 團扇	 傘
 行燈	 算盤	 筥
 提燈	 時計	 下駄
 煙草盒	 磁石	 雪踏
 煙管	 寒暖計	 履

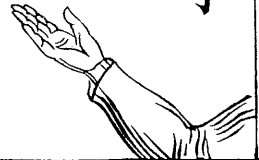
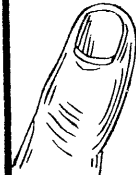
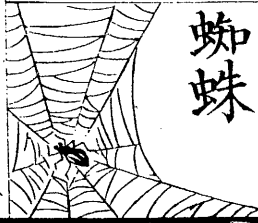
第六圖

	手拭		上衣		著物
	手袋		襦袢		羽織
	股引		夜具		單衣
	短胴服		帽		浴衣
	足袋		頭巾		袴

學讀本入門

正寶堂藏版

第七圖

	蟬		口		顔
	蜻蛉		手		頭
	蜂		指		目
	蝶		爪		耳
	蜘蛛		足		鼻

小讀本入門

六

正寶堂藏版

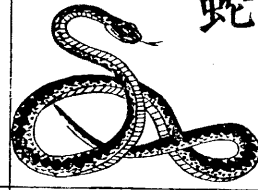
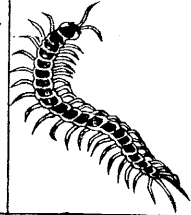
第八圖

雞	鶴	桔梗
		
鳩	雁	菽
		
雀	鷹	菊
		
燕	鳶	南天
		
鶯	烏	水仙
		

小賣大月

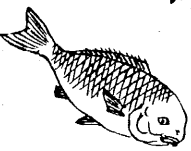
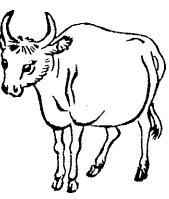
七

正寶堂藏版

櫻	松	蛇
		
牡丹	竹	蜈蚣
		
燕子花	梅	蛙
		
百合	椿	蟹
		
柳	山吹	龜
		

學詩本入門

正寶堂藏版

馬		熊		鯛	
牛		鹿		鯉	
猫		猪		鮒	
猴		狐		金魚	
兔		狸		鰻	

假名單句篇

第一

机ふむ。ひ。本を讀む。○筆
 をとちて。手習ふ。○硯ふて
 墨をする。○算盤にてもの
 を數ふ。○黒き羽織をきる。
 ○白き足袋をもく。○鶴

頸も長し。○雁乃足も短し。
○鳥も鳩より大あり。○兎も狐より小し。○雀も朝軒になく。○犬も夜門をまもる。○頭に帽をかむる。○手に杖を携ふ。○人を乗せて走る馬あり。○車をひきて。

歩む牛あり。

第二

朝日乃方を東とし。夕日北を西とし。○磁石も北と南をさし。○櫻も春に花をき。菊の花も秋開く。○夏も單衣帷子を着。冬も袷綿

入を着る。○東。西。南。北。を。四
方。と。い。ひ。春。夏。秋。冬。を。四。時
と。い。ふ。○目。な。け。ま。を。見。る
能。ま。じ。○耳。阿。る。ゆ。ゑ。聞。く
こ。ぞ。を。得。る。○鼻。も。香。を。嗅
き。口。も。食。を。味。ふ。○皮。膚。に
ふ。ま。て。物。の。剛。柔。を。知。る。○

耳。目。口。鼻。に。皮。膚。を。合。せ。て。
五。官。と。い。ふ。

第三

汝の着物ハ。絹なるや。○我ハ
袴も。木綿なり。○絹ハ。柔に
て。ろく。木綿も。厚く。て。つ
と。○彼の上。衣も。毛織に

て。木の羽織も。麻布あり。○毛織も。最暖にして。麻布ハ。最涼し。○葡萄も。たなをかけて作り。其實も。秋に至りて熟す。○蓮根ハ。沼田に作り。冬の日。ふ之をちる。○柿も。甘く。蜜柑も。酸く。薑も。辛く。慈姑も。苦く。何

り。○果物ハ。熟したるふ何らぞれも。食ふべあらば。○野菜も。煮ゆるをまちて食ふべし。

第四

草木も。生命何きども。歩行をすることを得ば。○鳥獸も。歩行すきども。語ることも能ふべし。

人も能く歩行し。能く語り。又能く物を考ふ。○物の多少をはかるにも。升を用ひ。長短をもあるにも。尺を用ふ。○天秤ハ。輕重を計るに用ふるものあり。○土地の高低ハ。水の流を見て知るべし。○木の良否

も。花の容を以て知るべし。○北の方に。紙鳶の昇り多るときは。風も。何きの方より吹くと知るや。○家の影。西の方につるときは。月も。何きの方ふけりと思ふや。

第五

家にありても。父母の命に従ひ。學校ふ於ても。教師の教を守る。盡し。○兄ハ。店に在りて。職業を勵む。弟も學校ふ出で。學問を勉む。○姉も。割烹の道にくはく。妹も。裁縫のわざに長む。○惡き友に交るな。かき。無益のものな

を弄ぶな。かき。○飲食をつゝみ。運動を怠らざるも。健康のもとなり。○人の惡きことをいへ。我の善きことをいふものなり。○知らざることも。速に問ふ。盡し。知ることも。かくも盡さるべ。○人を欺くも。物をぬくも

交り單句篇

江戸寶堂藏

に同一。戯にも。虚言をなすこと
なから。

假名單句篇終



板權免許明治十八年三月廿五日

出版發兌明治十八年四月十日

讀入門

定價六錢

京都平民

編輯者

荊谷保敏

京都上京區第千總尾張町十四番戸

内壹号

京都府平民

出版人

福井源次郎



下京區第千總尾張町東入石橋三番戸